

証券コード 6768
東京証券取引所 プライム上場

株式会社タムラ製作所

2027年3月期 第1四半期
決算概要

2026年8月5日



目次

1. 本日のハイライト
2. 2027年3月期 第1四半期決算概要
3. 2027年3月期 通期業績予想
4. 成長領域での取り組み

【参考資料】



代表取締役社長兼COO
中村 充孝

本日のハイライト

1 第1四半期の総括

AIデータセンター関連や産業機器関連の需要拡大。
売上高、四半期純利益は第1四半期として開示来最高

売上高	327億8千4百万円
営業利益	11億3千5百万円
四半期純利益	30億4千4百万円

- 電子部品関連事業は大型トランス・リアクタが成長を牽引
- 電子化学実装関連事業は金属価格上昇の影響で減益
- 投資有価証券売却・中国事業再編により資本効率改善を推進

2 2027年3月期 通期予想

収益性の改善を進めるとともに、
成長投資で通期業績予想の達成を確実なものに

売上高	1,300億円
営業利益	56億円
当期純利益	45億円

- AIデータセンター関連需要は引き続き堅調、
産業機器関連市場も回復基調が継続
- 金属価格上昇に伴う販売価格改定が進展し、
電子化学実装事業の収益性改善

3 成長領域での取り組み

成長領域での取り組みを加速し、
第14次中期経営計画達成の道筋をつける

営業利益率	7%以上
ROE	8%以上

- EMG社の株式取得で中電圧・大容量領域の製品ラインアップ拡充、タムラのグローバル生産網で世界に広く供給開始
- 電子化学事業の黒色ソルダーレジスト「NOCTURNE」など、
高付加価値製品の拡販を推進

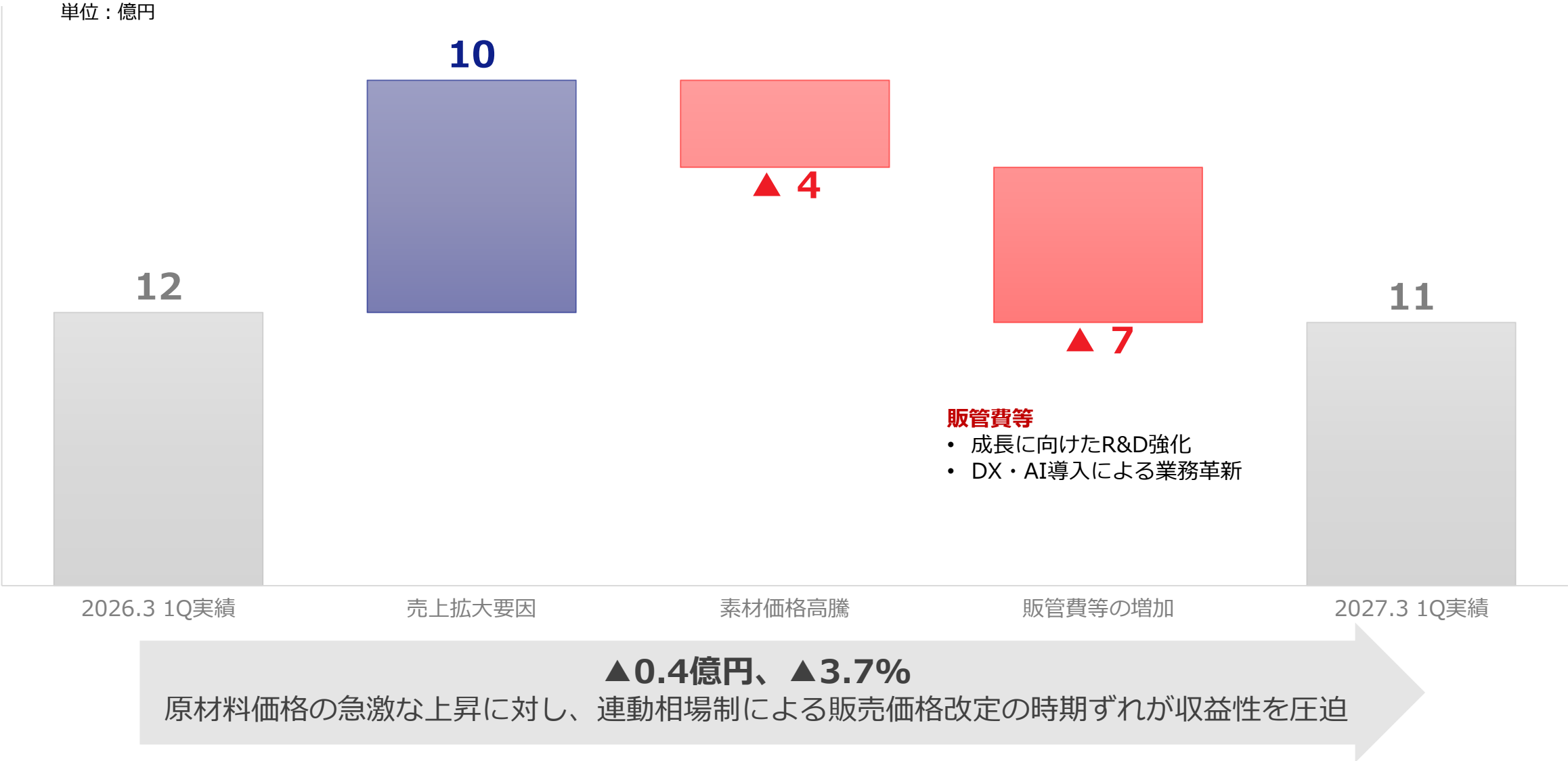


2. 2027年3月期 第1四半期決算概要

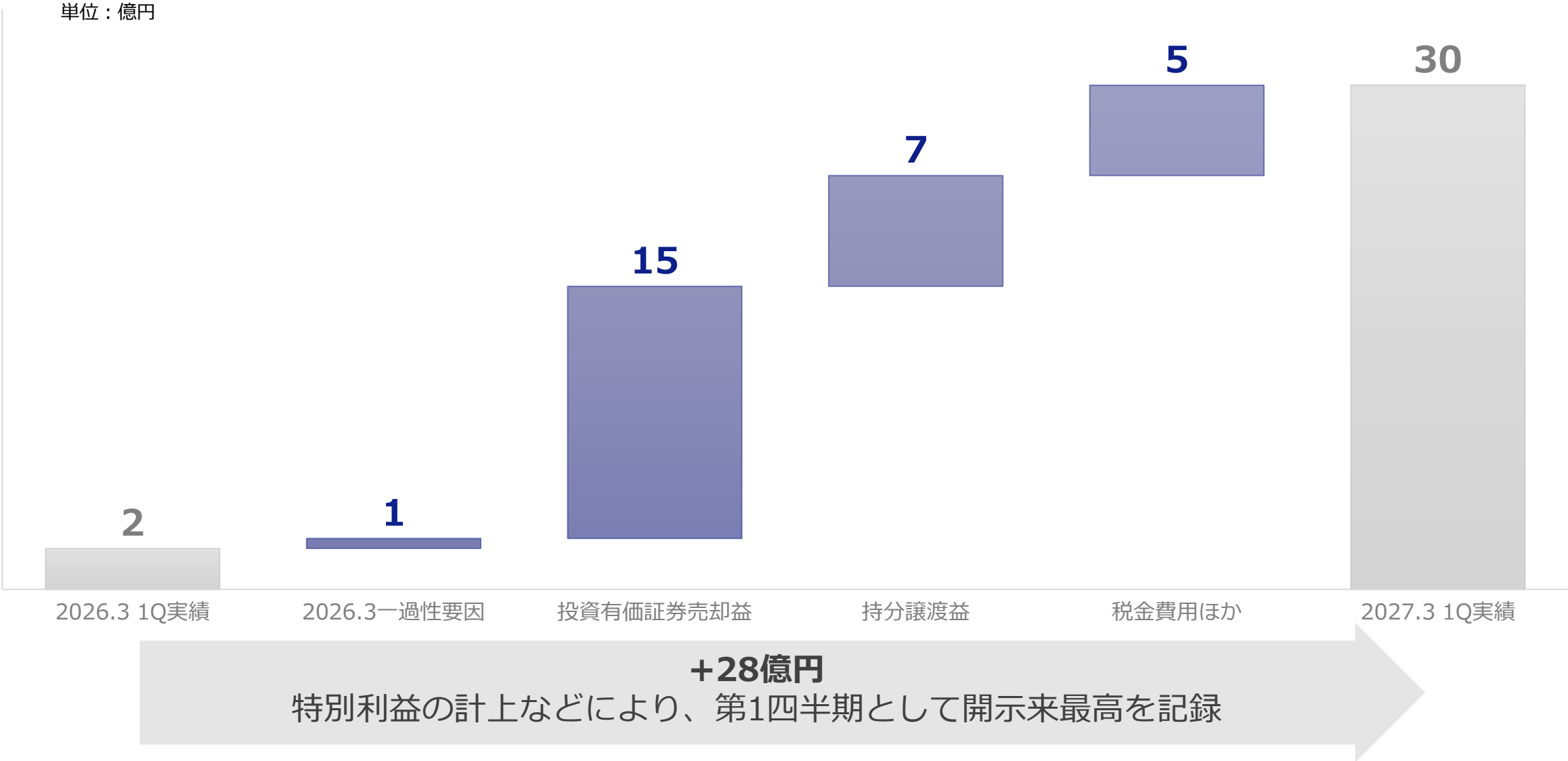
2027年3月期 第1四半期 決算サマリー

(百万円)	2026.3	2027.3	前年同期比		ポイント
	Q1実績	Q1実績	増減	増減率	
売上高	28,872	32,784	+3,911	+13.5%	・AIサーバー・データセンター関連の需要が引き続き拡大 ・車載関連が安定的に推移 ・産業機器関連の需要も拡大に転じる
営業利益	1,178	1,135	▲ 43	▲ 3.7%	電子化学実装関連事業において原材料価格の急激な 上昇に対し、連動相場制による販売価格改定の時期ずれが 収益性を圧迫
営業利益率	4.1%	3.5%	▲ 0.6pt		
四半期純利益	246	3,044	+2,797	12倍	資産売却による特別利益を計上 ・中国連結子会社の持分譲渡益 ・投資有価証券売却益

2027年3月期 第1四半期実績 営業利益増減分析



2027年3月期 第1四半期実績 四半期純利益増減分析



2027年3月期 第1四半期 事業部門別 売上・営業利益実績

(億円)		売上高	増減額 増減率	主な増減要因
電子部品関連	2026.3期 1Q	198	+14	(+) 米国データセンター向けを中心に、大型トランス・リアクタの売上が拡大 (+) 産業機械向けトランス・リアクタ堅調。エアコン用リアクタは安定的に推移
	2027.3期 1Q	211	+6.9%	
電子化学実装関連	2026.3期 1Q	88	+28	(+) AIサーバー向けなど情報通信関連の需要が増加。車載用途は安定的に推移 (+) スマートフォン向けソルダーレジストが堅調に推移
	2027.3期 1Q	116	+31.6%	
情報機器関連	2026.3期 1Q	3	▲ 2	(－) 放送業界の厳しい設備投資環境が継続
	2027.3期 1Q	1	▲ 71.1%	

(億円)		営業利益	増減額 増減率	主な増減要因
電子部品関連	2026.3期 1Q	9	+2	(+) 大型トランス・リアクタや、航空宇宙・防衛向けトランスなど付加価値の高い製品の売上拡大により製品ミックスが改善
	2027.3期 1Q	10	+19.9%	
電子化学実装関連	2026.3期 1Q	8	▲ 2	(－) 素材価格の高騰が収益性を圧迫
	2027.3期 1Q	6	▲ 19.8%	
情報機器関連	2026.3期 1Q	▲ 3	+0	(－) 放送業界の厳しい設備投資環境が継続
	2027.3期 1Q	▲ 3	-	

注：連結消去（主に全社未来開発費）により、営業利益の全社値と事業部門合計は一致しません。

事業部門別 電子部品関連事業

(億円)	2026.3期	2027.3期			主な変動要因など (+) 改善要因、(-) 悪化要因	2027.3期
	1Q実績	1Q実績	構成比	増減率		通期予想
製品別 売上高	198	211	100.0%	6.9%		846
大型トランス・リアクタ	47	60	28.4%	27.1%	(+) 米国AIデータセンター向けを中心に売上が拡大	246
トランス	21	24	11.5%	16.8%	(+) 産業機械向け、航空宇宙・防衛向けが堅調	92
コイル・リアクタ	59	59	28.0%	▲ 0.2%	(+) 産業機械向け堅調、空調用途は安定推移	230
ACアダプタ・チャージャ	30	26	12.2%	▲ 13.2%	(-) 電動工具向けチャージャの需要が一服	111
EMS	5	5	2.6%	15.0%		22
モジュール	20	21	10.1%	5.9%		85
その他	16	16	7.4%	▲ 0.7%		60
市場別 売上高	198	211	100.0%	6.9%		846
産業機械	38	51	24.0%	32.9%	(+) 産業機械向け、航空宇宙・防衛向けが堅調	169
エネルギー	61	71	33.8%	17.3%	(+) 米国AIデータセンター向けを中心に大型トランス・リアクタが好調	297
交通・車両	21	19	9.1%	▲ 7.3%		86
家電・住宅	66	61	28.8%	▲ 8.3%	(-) 電動工具向けチャージャの需要が一服	251
情報通信・AV他	12	10	4.6%	▲ 17.4%		44

事業部門別 電子化学実装関連事業

(億円)	2026.3期	2027.3期			主な変動要因など (+) 改善要因、(−) 悪化要因	2027.3期
	1Q実績	1Q実績	構成比	増減率		通期予想
製品別 売上高	88	116	100.0%	31.6%		450
溶剤ペースト関連	56	78	67.7%	38.9%	(+) 車載用途が安定的に推移 (+) AIサーバー向けなど情報通信関連の需要が増加 *錫・銀など、金属価格の売価反映影響あり	296
溶剤レジスト関連	16	19	16.2%	14.2%	(+) スマートフォン向けフレキシブル基板用途に加え、AIサーバー向けも堅調	78
フラックス他	8	8	7.3%	10.9%		30
実装装置	8	11	9.3%	26.7%		46

事業部門別

情報機器関連事業

*2026年10月1日付での事業譲渡を予定

放送業界全般における厳しい設備投資環境の継続により減収

(億円)	2026.3期	2027.3期		2027.3期
	1Q実績	1Q実績	増減率	通期予想(注)
売上高	3.1	0.9	▲ 71.1%	30
営業利益	▲ 2.9	▲ 2.7	赤縮	▲5
営業利益率	▲93.7%	▲295.8%	▲202.2pt	▲16.7%



3. 2027年3月期 通期業績予想

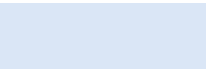
2027年3月期 通期業績予想

AIデータセンター向け製品の堅調な需要、産業機器関連需要の回復、電子化学実装の収益性改善を見込む
関税影響や、中東情勢をはじめとする地政学リスクの影響を最小化し、過去最高の売上高・営業利益の達成を確実なものに

(百万円)	2026.3	2027.3			前年同期比		(参考) 実質前年 同期比増減*
	実績	上期	下期*	通期	増減	増減率	
売上高	123,559	65,200	64,800	130,000	+6,441	+5.2%	+9,158
営業利益	5,287	2,400	3,200	5,600	+313	+5.9%	+775
営業利益率	4.3%	3.7%	4.9%	4.3%	+0.0pt		
当期純損益	▲ 1,385	-	-	4,500	+5,885	黒字回復	-
ROE	▲ 2.2%	-	-	7.0%	+9.2pt	-	-
ROIC	3.6%	-	-	4.4%	+0.8pt	-	-
1株当たり配当	13円	8円	8円	16円	+3円	+23.1%	-

* 下期・通期業績は2026年10月1日に譲渡予定の情報機器事業を除いています。
また、ご参考として、下期・通期業績に情報機器事業を含めた場合の業績増減を記載しています。

2027年3月期 事業部門別売上・営業利益予想

事業部門別		売上	増減額 増減率	主な増減要因
(億円)				
電子部品関連	2026.3期	 815	+31	(+) AIデータセンター市場での競争力向上・生産能力増強
	2027.3期	 846	+3.7%	(+) 産業機械向けトランス・リアクタの需要回復を見込む
電子化学実装関連	2026.3期	 399	+51	(+) AIサーバー関連など情報通信関連の需要拡大を見込む、モバイル関連の需要増も想定
	2027.3期	 450	+12.7%	(+) 錫・銀など素材価格上昇に合わせた価格改定の進展
情報機器関連	2026.3期	 21	▲ 17	(-) 放送業界の厳しい設備投資環境が継続
	2027.3期	 4	▲ 81.3%	*2026年10月1日に事業譲渡予定
		営業利益	増減額 増減率	主な増減要因
(億円)				
電子部品関連	2026.3期	 33	+7	(+) 中国構造改革・生産再編と、産機・航空宇宙・防衛向け増加などミックス改善
	2027.3期	 40	21.1%	(+) AIデータセンター市場での競争力向上・生産効率改善
電子化学実装関連	2026.3期	 33	+9	(+) AIサーバー関連の他、モバイル関連の採用増加およびシェア拡大を見込む
	2027.3期	 42	+26.0%	(+) 実装装置の新モデル市場投入により利益拡大を図る
情報機器関連	2026.3期	▲ 6	+2	(-) 放送業界の厳しい設備投資環境が継続
	2027.3期	▲ 4	赤縮	*2026年10月1日に事業譲渡予定

* 連結消去（主に全社未来開発費）により、営業利益の全社値と事業部門合計は一致しません。

* 情報機器関連の2027.3期は上期のみ表示しています。

2027年3月期 地域別売上・営業利益予想

地域別		(億円)	売上	増減額 増減率	主な増減要因
日本	2026.3期		342	▲ 20	(－) 情報機器事業の事業譲渡 *2026年10月1日実施予定
	2027.3期		322	▲ 5.8%	
中国	2026.3期		297	+1	(－) ASEAN等、他地域への生産移管
	2027.3期		298	+0.5%	
その他アジア	2026.3期		240	+31	(＋) 生産再編に伴う生産機能強化 (＋) AIデータセンター含む情報通信関連需要の増加
	2027.3期		271	+13.0%	
欧米	2026.3期		357	+52	(＋) AIデータセンター市場での競争力向上・生産能力増強
	2027.3期		409	+14.5%	
		(億円)	営業利益	増減額 増減率	主な増減要因
日本	2026.3期	▲ 6		▲ 7	(－) 構造改革関連費用
	2027.3期	▲ 13		赤払	
中国	2026.3期		21	▲ 1	(－) 構造改革・生産再編費用
	2027.3期		20	▲ 2.5%	
その他アジア	2026.3期		21	+7	(＋) AIデータセンター含む情報通信関連需要の増加
	2027.3期		28	+31.7%	
欧米	2026.3期		17	+4	(＋) AIデータセンター市場での競争力向上・生産効率改善
	2027.3期		21	+23.5%	

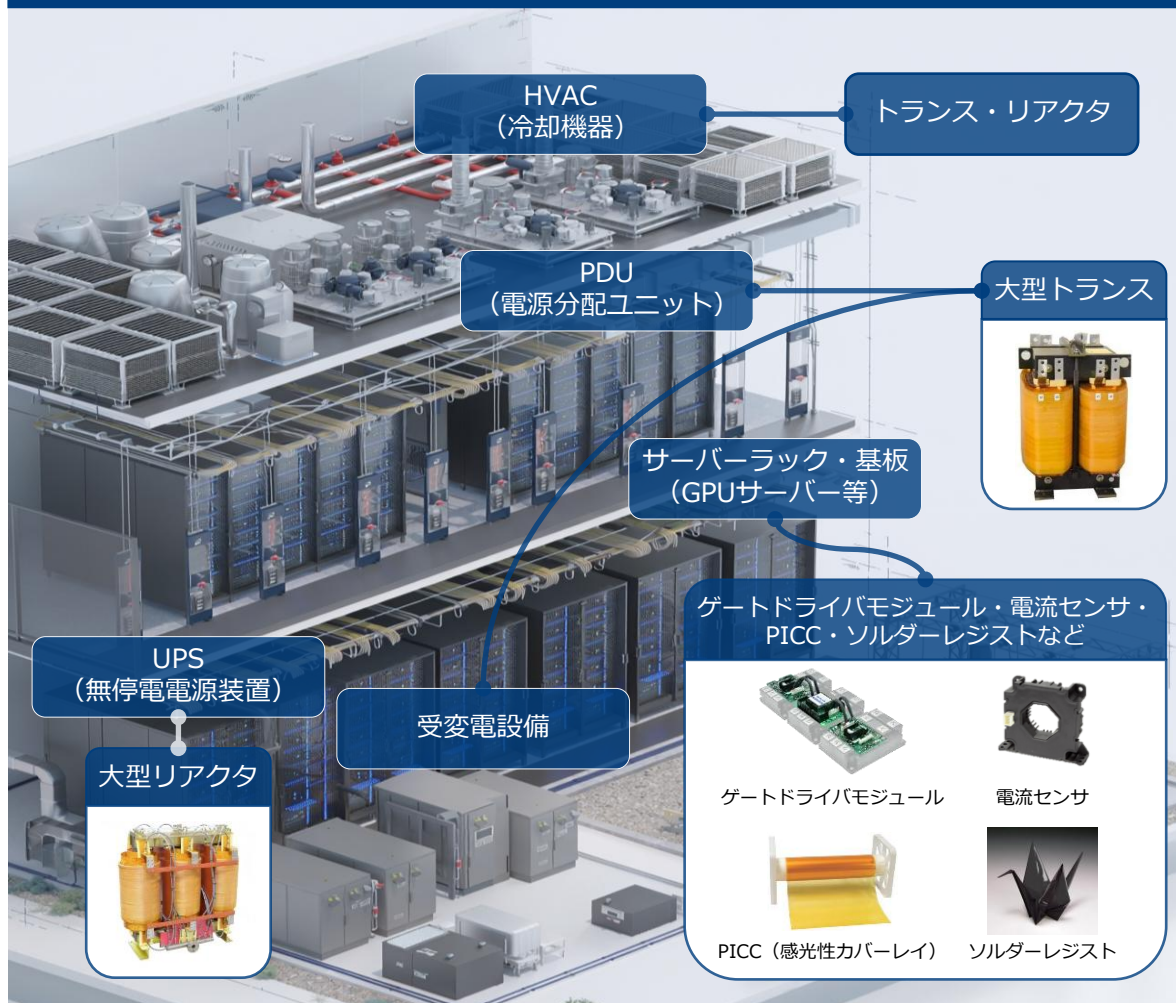
*日本には連結消去等を含めて表示しています。

4. 成長領域での取り組み

AIデータセンターの幅広い領域で採用されるタムラ製品

タムラの多様な製品が、データセンターの高効率・高信頼性・安定稼働に貢献し、持続的な成長を実現

データセンターの構成とタムラ製品の使用箇所（イメージ）



タムラ製品が使用される領域

受変電設備、PDU（電源分配）	→ 大型トランス
UPS（無停電電源装置）	→ 大型リアクタ
HVAC（冷却機器）	→ トランス、リアクタ
サーバーラック（GPUサーバー等）	→ 電流センサ、ゲートドライバモジュール
基板実装、材料	→ ソルダーレジスト、ソルダーペースト

北米市場におけるPDU向け大型トランス シェア約40%*当社調べ

- 1 設計段階からの深い顧客協業**
欧州再生エネ市場で培った信頼と採用実績を基盤に設計初期から顧客ニーズに対応
- 2 設計力・ノウハウの蓄積**
欧・米・日3拠点の設計体制により、競合他社比で短いリードタイムを実現
- 3 先行投資とグローバル供給体制**
メキシコ工場の増強とMV領域の新製品導入を推進
世界7拠点から安定供給が可能な体制を構築

2027年度データセンター向け売上は2024年度比2倍へ拡大

電力密度の上昇により、電源・配電・冷却・保護の高度化が進展。中電圧・大容量（MV）領域への参入でさらなる事業拡大へ

AIによる電力密度上昇で、電力供給・熱対策・高密度実装の投資が拡大

データセンター向け製品売上見通し

1

電源アーキテクチャの進化

- ・ 中圧・高圧化（MV/800VDC）
- ・ 電力変換の高効率化

→

高信頼の磁性部品ニーズが高まる

- ・ 大型トランス・リアクタ
- ・ 電流センサ・ゲートドライバモジュール

2

サーバー/基板の高密度実装

- ・ 材料性能要求の上昇
- ・ 基板あたり材料使用量の増加

→

材料・実装領域も関連売上に寄与

- ・ PICC（感光性カバーレイ）
- ・ ソルダーペースト、ソルダーレジスト

EMG社取得とメキシコ工場生産能力の増強で市場シェアのさらなる拡大へ

1

EMG Power Electric S.r.l. (EMG社)株式譲渡契約を締結

2026年10月、MV領域で優れた技術を持つEMG社の株式80%を取得予定
データセンター市場におけるMVソリューションを強化し事業成長を加速

2

メキシコ工場にMV領域の新製品を追加、生産能力を倍増

2027年度の生産能力を2023年度の4倍に増強

Year	Sales (Relative to 2024)
2024	1.0x
2025	~1.5x
2026	~2.0x
2027	~2.2x (2024年度比約2倍以上)

© TAMURA CORPORATION All Rights Reserved | 18

EMG社の技術獲得による事業領域の拡大

MV技術の獲得により、対応領域が低圧（LV）中心からMVへ広がり、新たな市場への提案機会が大幅に拡大

大型トランス・リアクタの主要市場マップ

タムラ

LV領域で再エネ市場を中心に
欧州主要メーカーで採用



再生可能エネルギー



データセンター



産業機械



新たにMV領域（～10MVA・36kV）を獲得
相互に提案領域を拡大

EMG社

MV領域で幅広い用途実績



鉄道



溶接



船舶



発電

両社の技術・知見を融合 電源部品メーカーから総合電力ソリューション企業へ

中電圧・大容量領域の製品ラインアップ拡充、AIデータセンターをはじめとした電力需要に対応する
省エネ・高効率な電力ソリューション提供、SST等の次世代製品の開発強化で提案領域を拡大



獲得する技術

モールドトランス

NEW

エポキシ樹脂で絶縁したボイドレス巻線構造
高信頼性・低メンテナンス性を実現

VPI（真空含浸）技術

EXPANDED

従来から保有する技術をベースに、
より高出力・大容量領域へ拡大

EMG社の技術 × タムラのグローバル供給網による市場領域拡大と成長加速

AIデータセンターを中心とした電力インフラ需要を取り込み、米州、欧州、アジアでのグローバルな事業成長を加速

タムラのグローバル生産網を活用し、世界へ供給

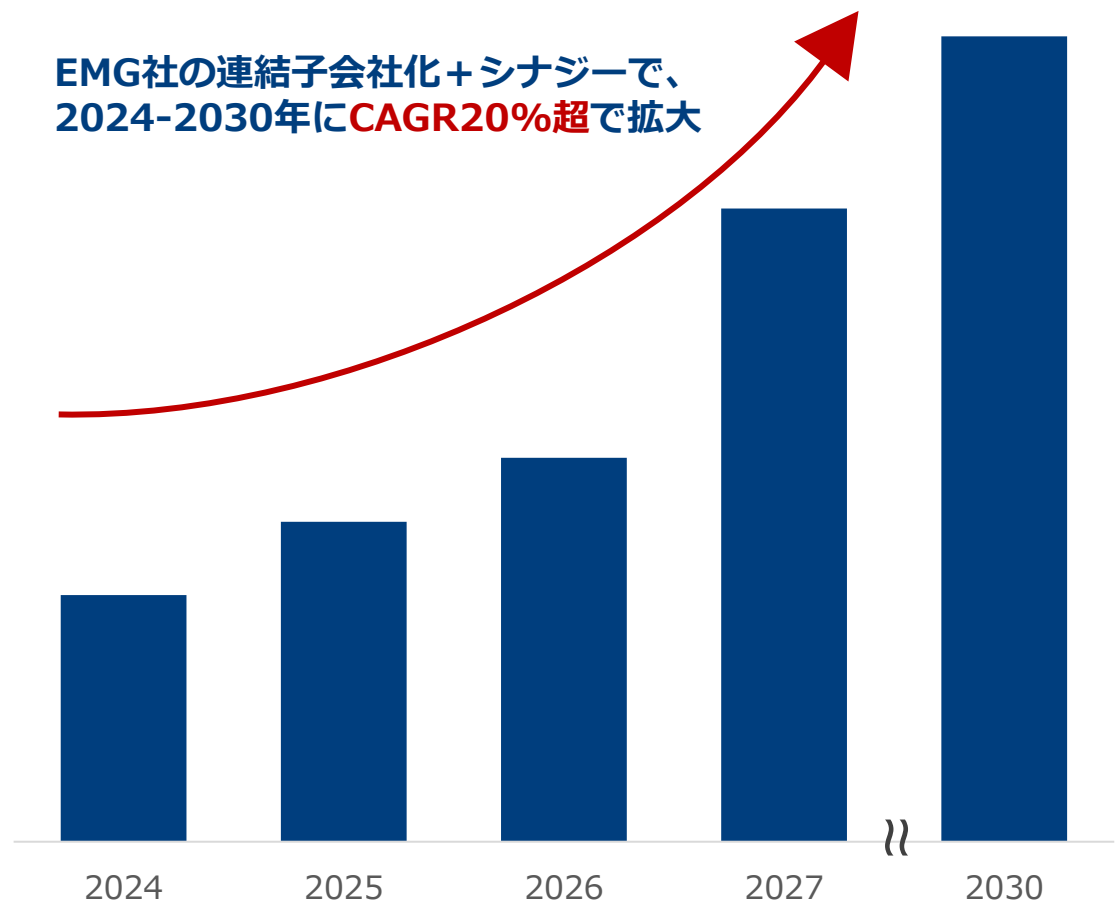


EMG社の技術を、タムラのグローバル生産網に乗せて世界へ供給

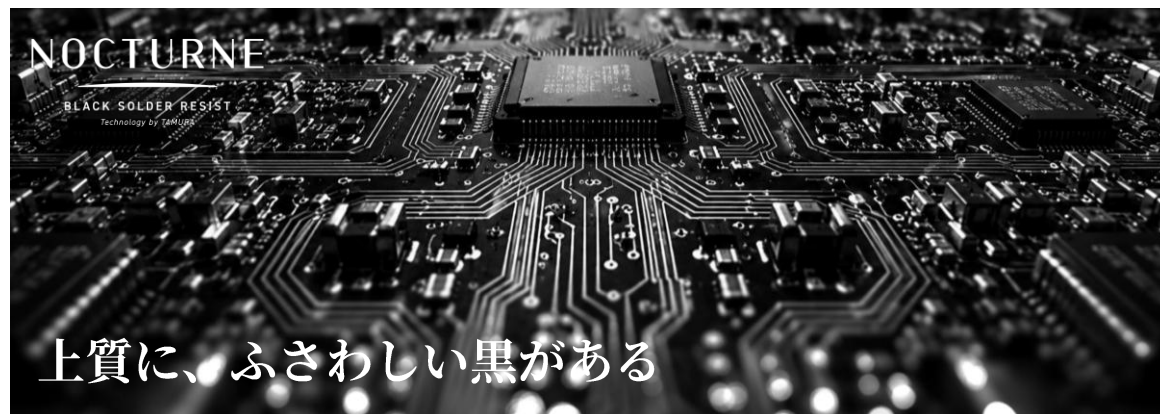
- ・ 生成AIの普及で、北米のデータセンターを中心に電力需要が急増
- ・ 省エネ高効率な電力ソリューションの提供により売上拡大を目指す

EMG社取得による大型トランス・リアクタ売上成長見通し

EMG社の連結子会社化+シナジーで、
2024-2030年にCAGR20%超で拡大



AIの進化を支える高機能材料 NOCTURNE



NOCTURNE とは

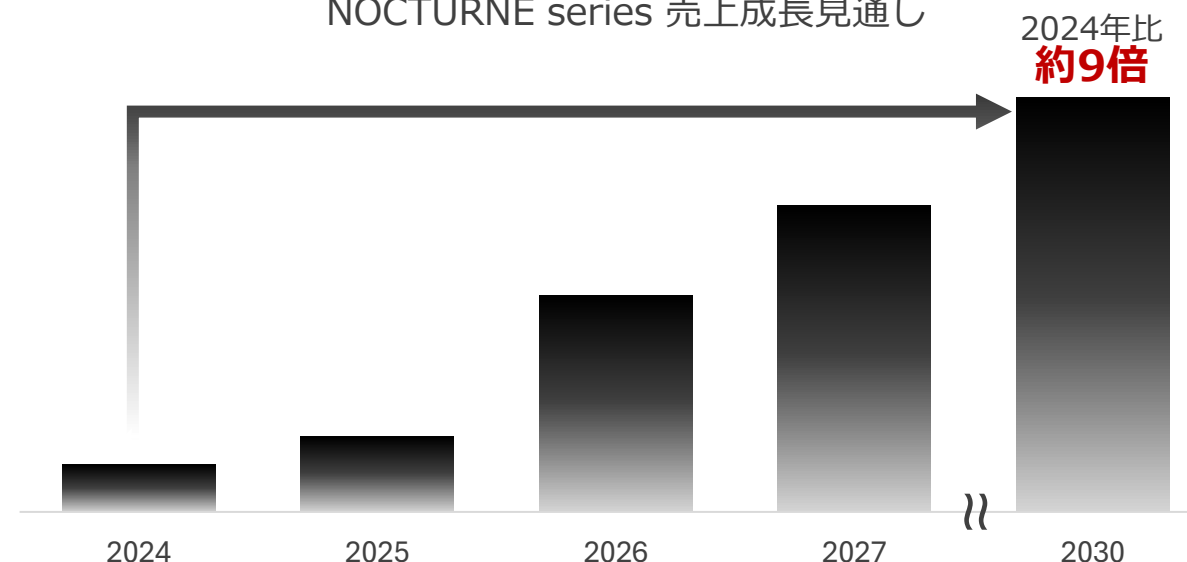
製品	黒色ソルダーレジスト「NOCTURNE」シリーズ
特長	耐熱性・信頼性・解像性・実装安定性を高水準で実現
用途特性	隠蔽性、反射・迷光の抑制、放熱性、筐体薄型化
採用領域	ハイエンド・高信頼性の7つの先端領域*

*7つの先端領域＝スマートフォン、モビリティ、ウェアラブル端末、通信インフラ、家電、ロボティクス、AIデータセンター・AIサーバー



- 1 拡大するAIサーバー実装需要を捕捉
高密度実装で材料への性能要求が上昇
- 2 電子化学実装事業の高付加価値化を牽引
ハイエンド領域向けの差別化材料として、液状、フィルム、FPC対応
- 3 高水準の品質を実現
耐熱性・信頼性・解像性・実装安定性を高い水準で実現し、量産に対応
- 4 脱炭素社会の実現に寄与 (CO₂ 排出削減、省電力化)
工程短縮、低露光量で量産タクト短縮

NOCTURNE series 売上成長見通し





参考資料

2027年3月期 第1四半期 貸借対照表・自己資本比率

[億円]	26.3末	26.6末	増減額
現金・預金	190	179	▲10
売上債権	335	332	▲3
棚卸資産	258	284	26
有形固定資産	338	334	▲4
資産合計	1,324	1,311	▲12
仕入債務	170	153	▲16
有利子負債	385	372	▲13
純資産	629	652	23
負債・純資産合計	1,324	1,311	▲12

	26.3末	26.6末	増減
自己資本比率（%）	47.4%	49.6%	2.2pt

2027年3月期 設備投資・減価償却費・研究開発投資予想

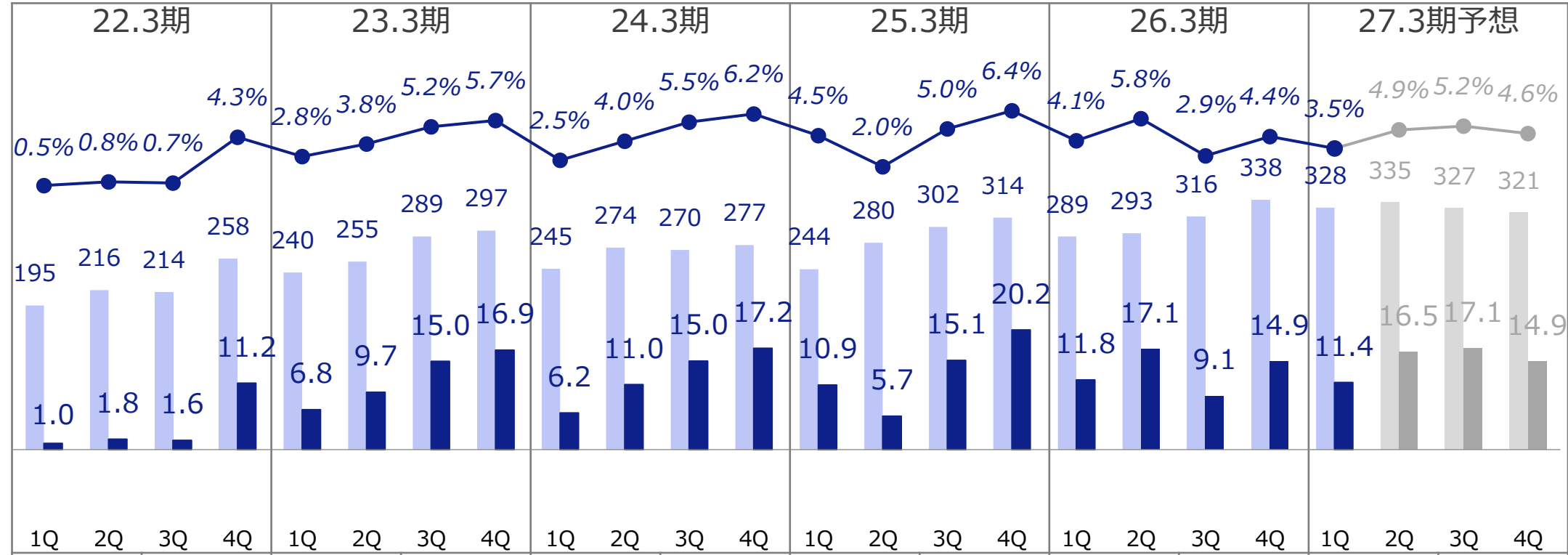
- ◆ 2026年3月期に電子化学実装事業の製造棟新設を実施。同影響で減価償却費が増加
- ◆ 研究開発では、引き続き次世代パワー半導体向けの要素技術や製品の開発に注力

	2026.3期	2027.3期		
(億円)	実績	予想	増減	増減率
設備投資	67.1	43.4	▲ 23.7	▲ 35.3%
減価償却費 *リース含む	44.0	52.9	8.9	20.3%
研究開発関連費用 (売上比率)	36.4 (2.9%)	37.4 (2.9%)	1.0	2.8%

注： 「研究開発関連費用」は、研究開発テーマに関わる経費・労務費・設備投資などを、当社の基準で集計している値です。

全社: 売上高・損益の四半期推移

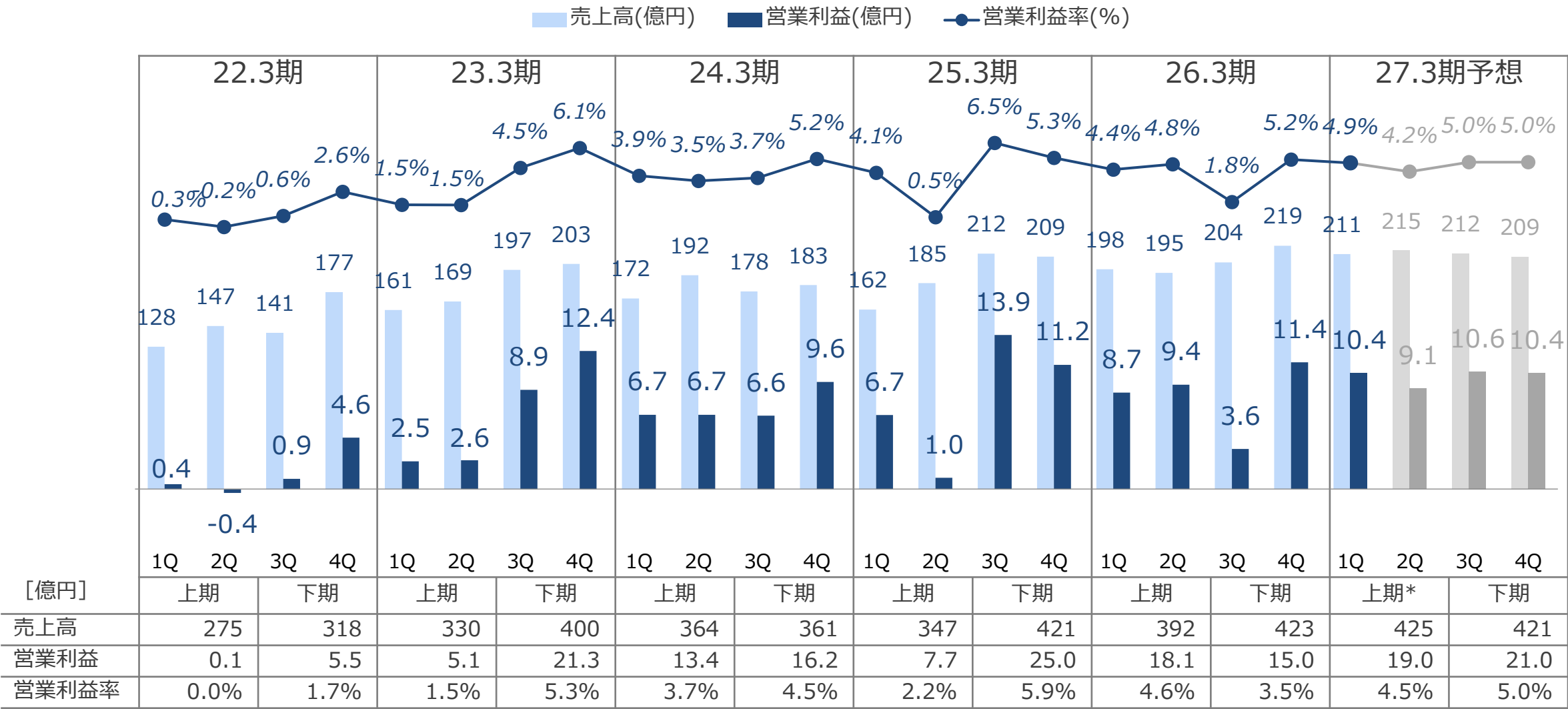
売上高(億円) 営業利益(億円) 営業利益率(%)



[億円]	1Q	2Q	3Q	4Q
	上期	下期	上期	下期
売上高	411	472	494	585
営業利益	2.8	12.8	16.5	31.8
営業利益率	0.7%	2.7%	3.3%	5.4%
為替 期中平均	111.16	134.39	143.08	152.50
(米ドル/円) 期末	122.39	133.53	151.41	149.52

* 27.3期予想グラフの予想値は、見直しを行っておりません。
そのため、1Q実績と2Q以降の予測のグラフ合計値と、表の数値は一致しません。© TAMURA CORPORATION All Rights Reserved 25

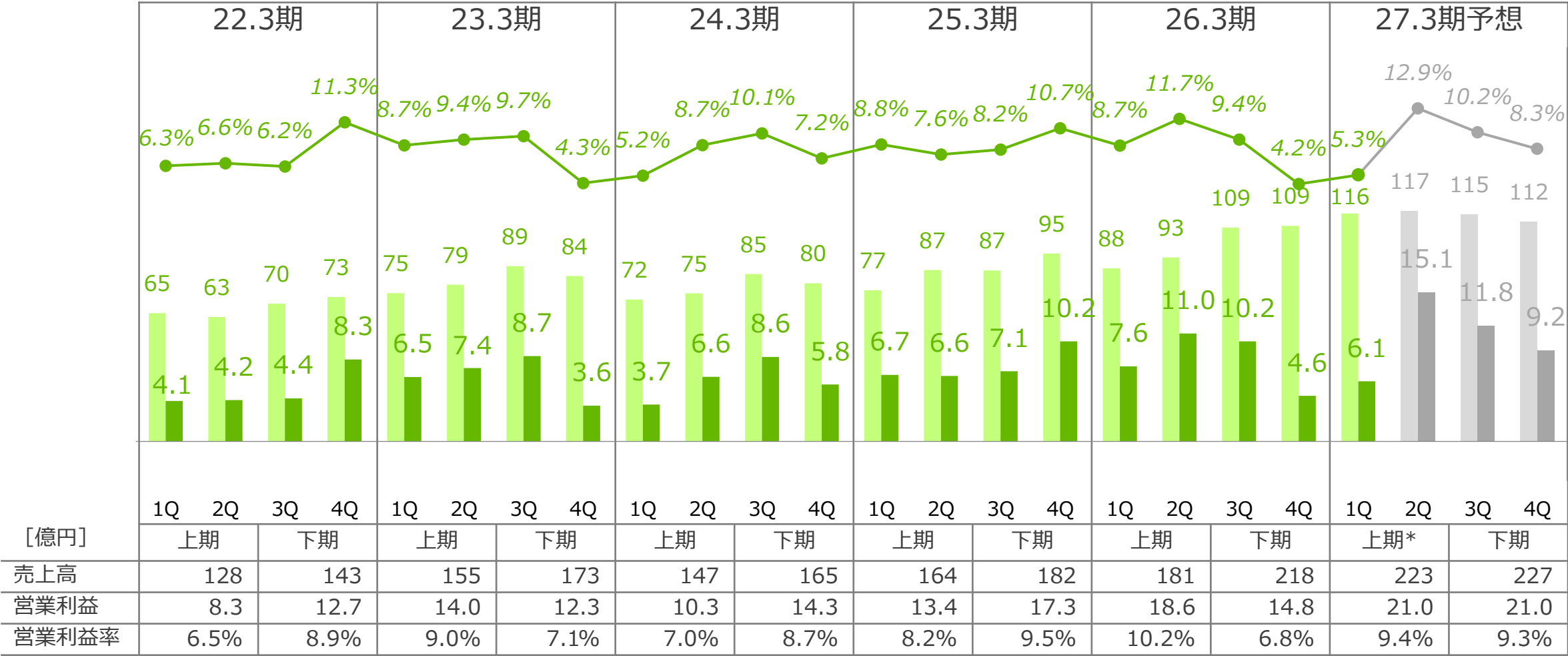
電子部品：売上高・損益の四半期推移



* 27.3期予想グラフの予想値は、見直しを行っておりません。
そのため、1Q実績と2Q以降の予測のグラフ合計値と、表の数値は一致しません。

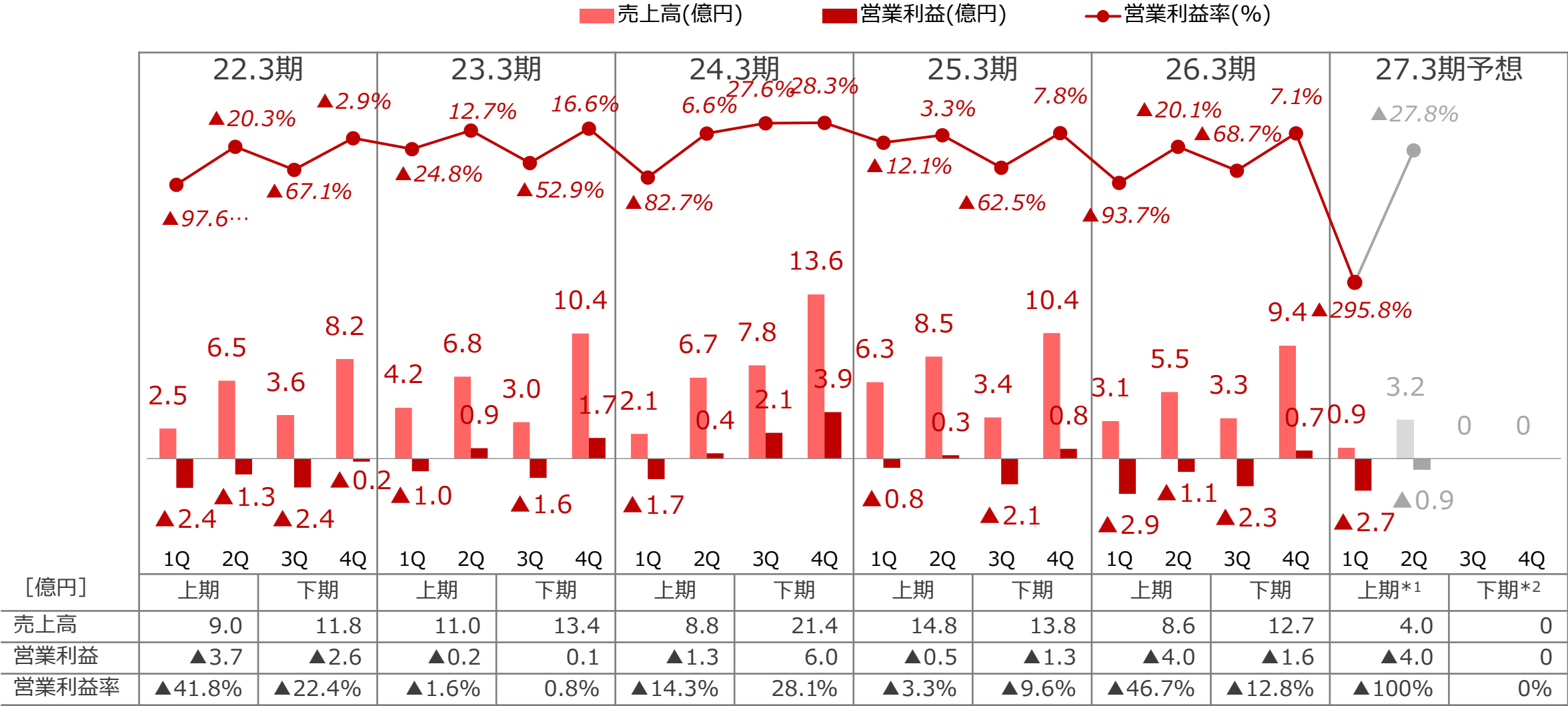
電子化学実装: 売上高・損益の四半期推移

売上高(億円) 営業利益(億円) 営業利益率(%)



* 27.3期予想グラフの予想値は、見直しを行っておりません。
そのため、1Q実績と2Q以降の予測のグラフ合計値と、表の数値は一致しません。

情報機器：売上高・損益の四半期推移

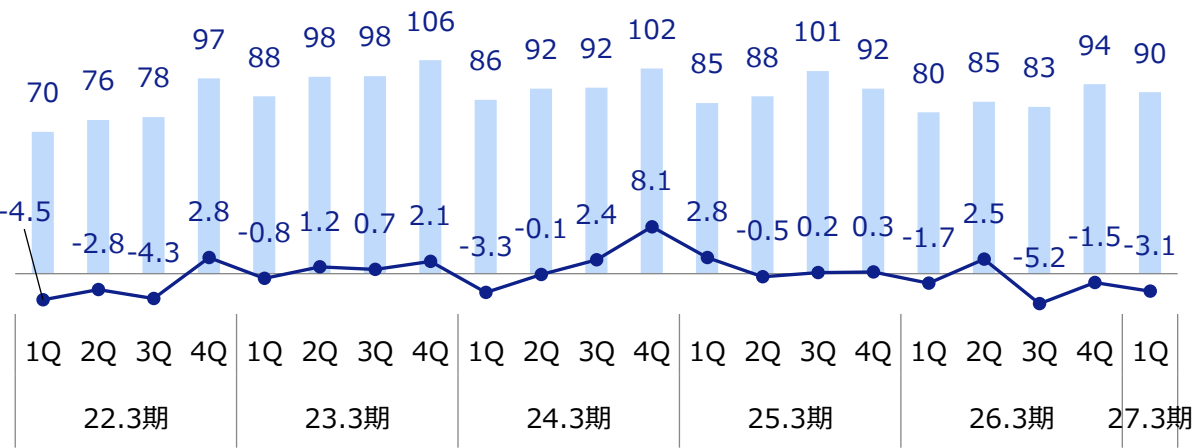


*1 27.3期予想グラフの予想値は、見直しを行っておりません。
そのため、1Q実績と2Q以降の予測のグラフ合計値と、表の数値は一致しません。

地域別：売上高・損益の四半期推移

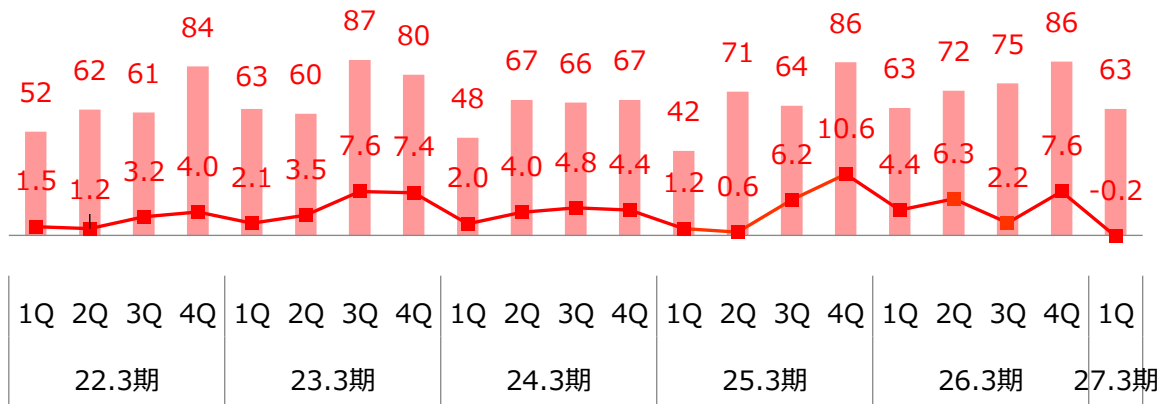
売上高(億円) 営業利益(億円)

日本

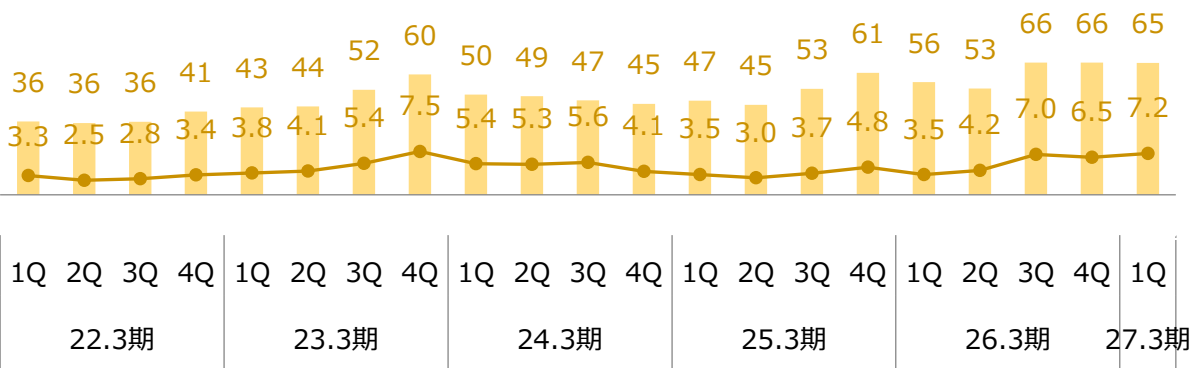


注：日本に連結消去等を含めて表示しています

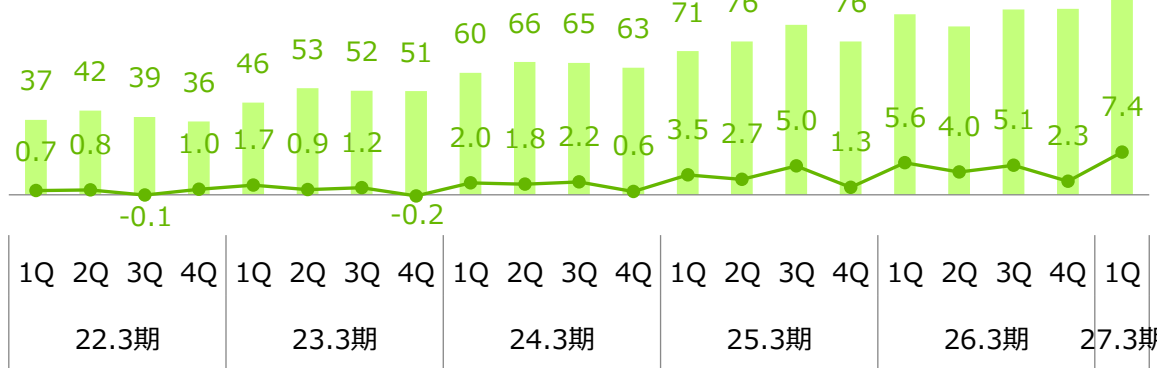
中国



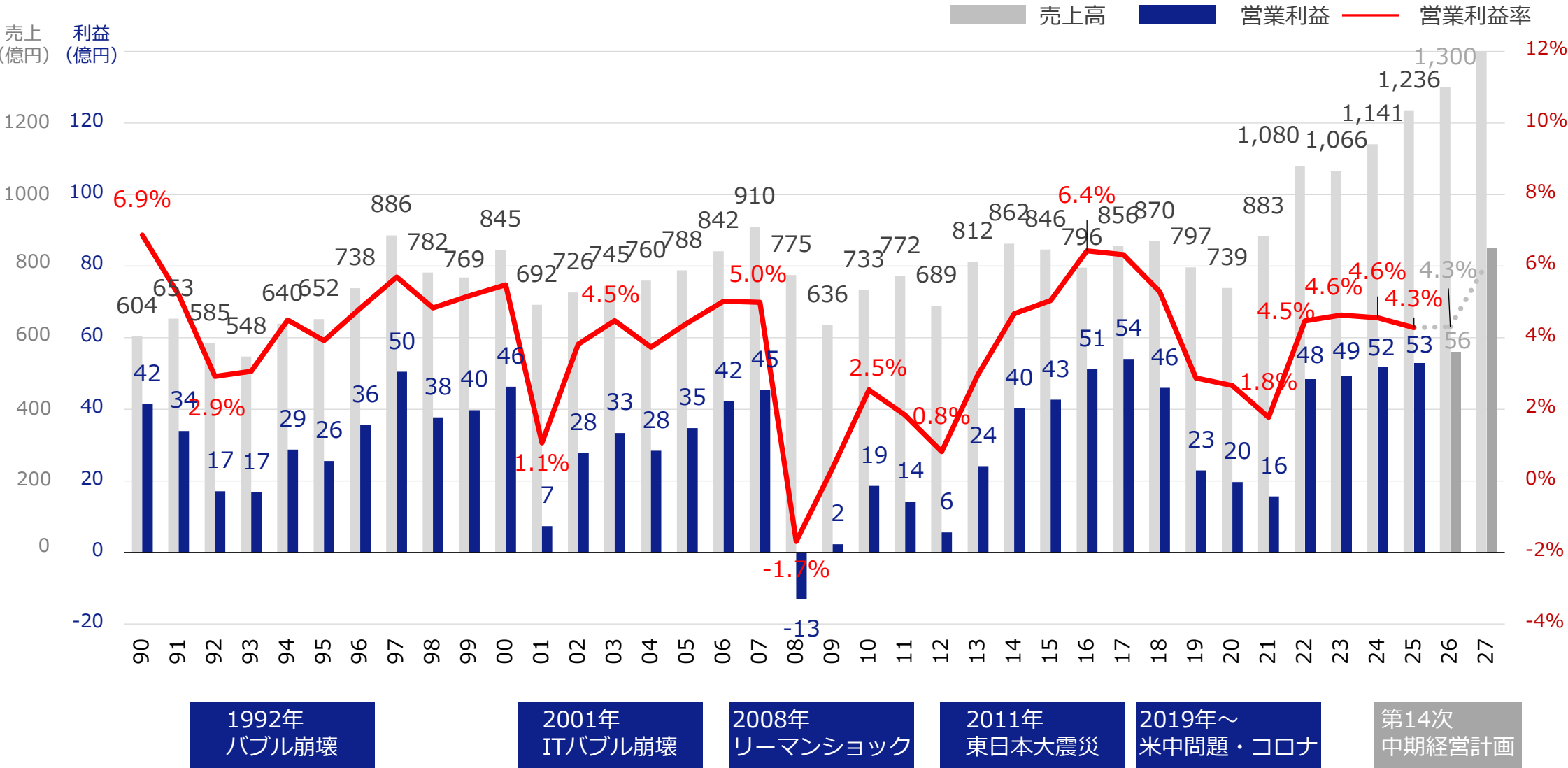
その他アジア



欧米

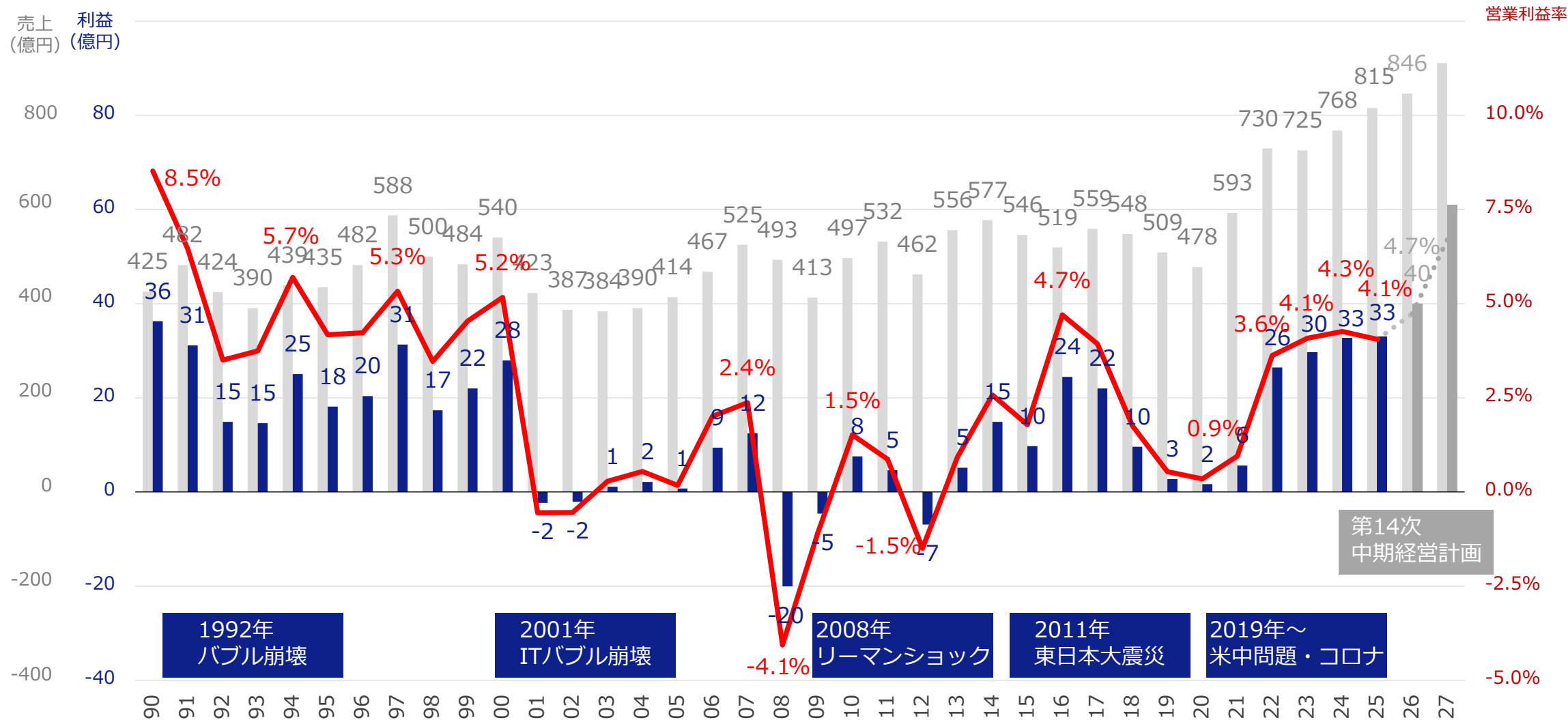


全社: 売上高・営業利益の推移

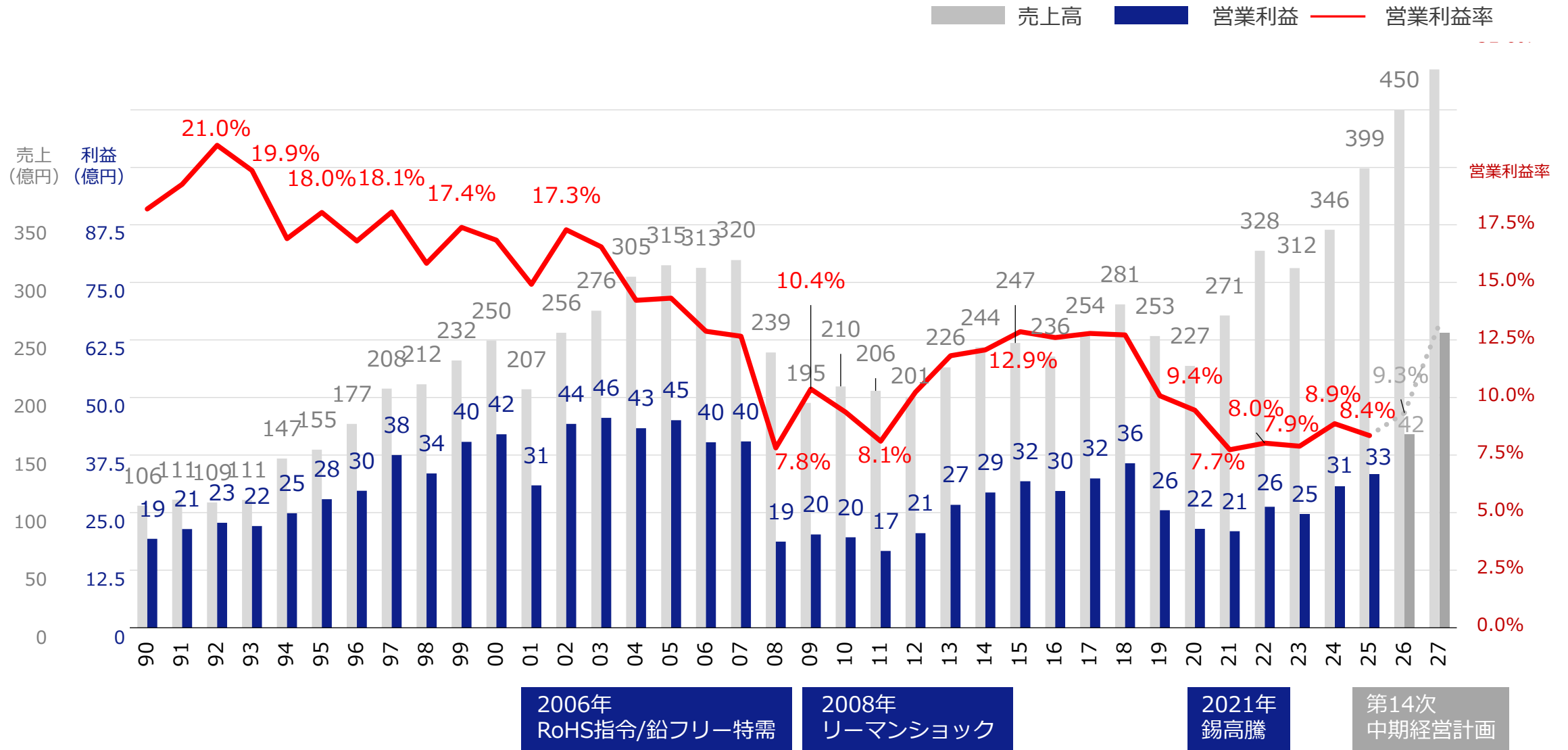


電子部品：売上高・営業利益の推移

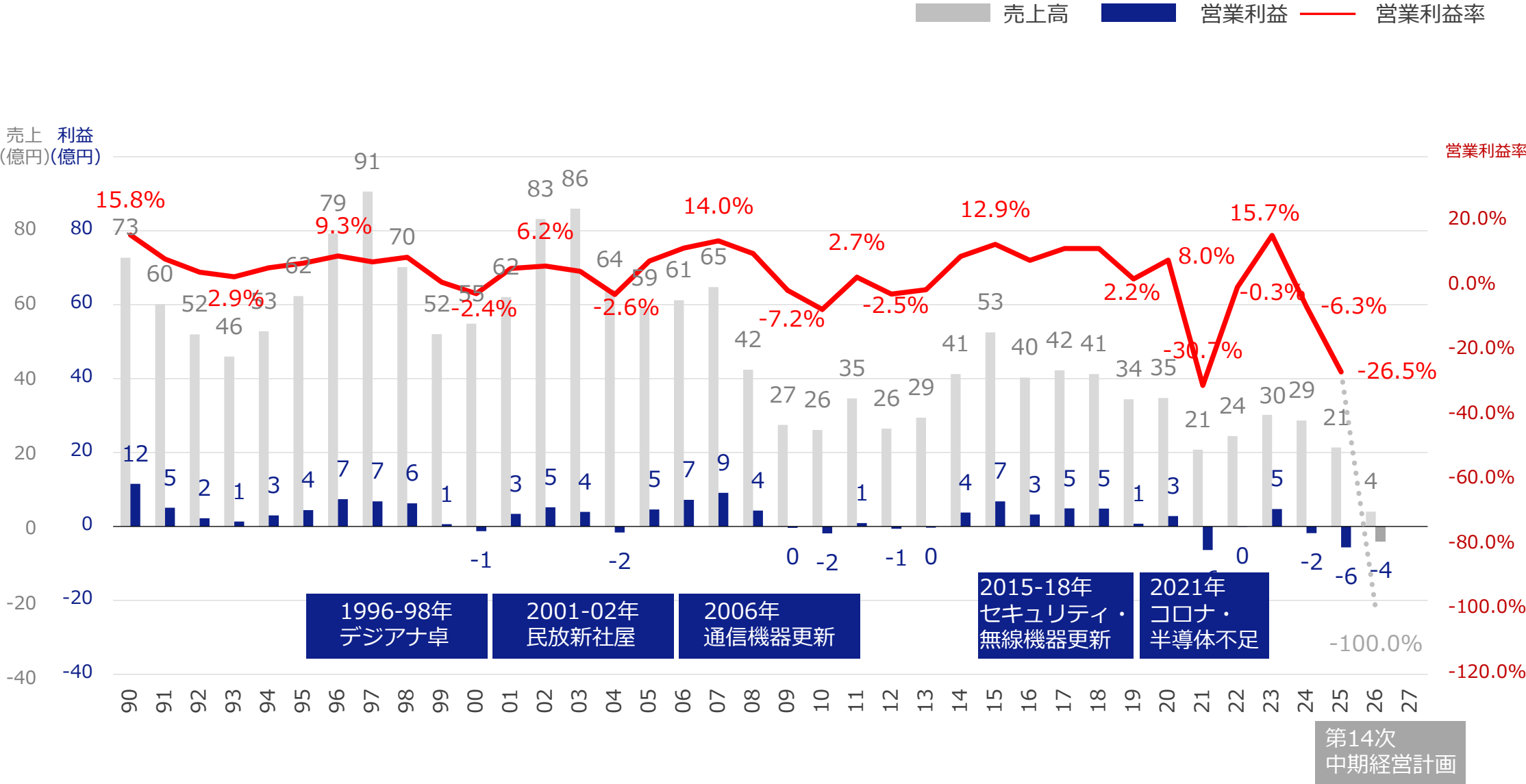
売上高 営業利益 営業利益率



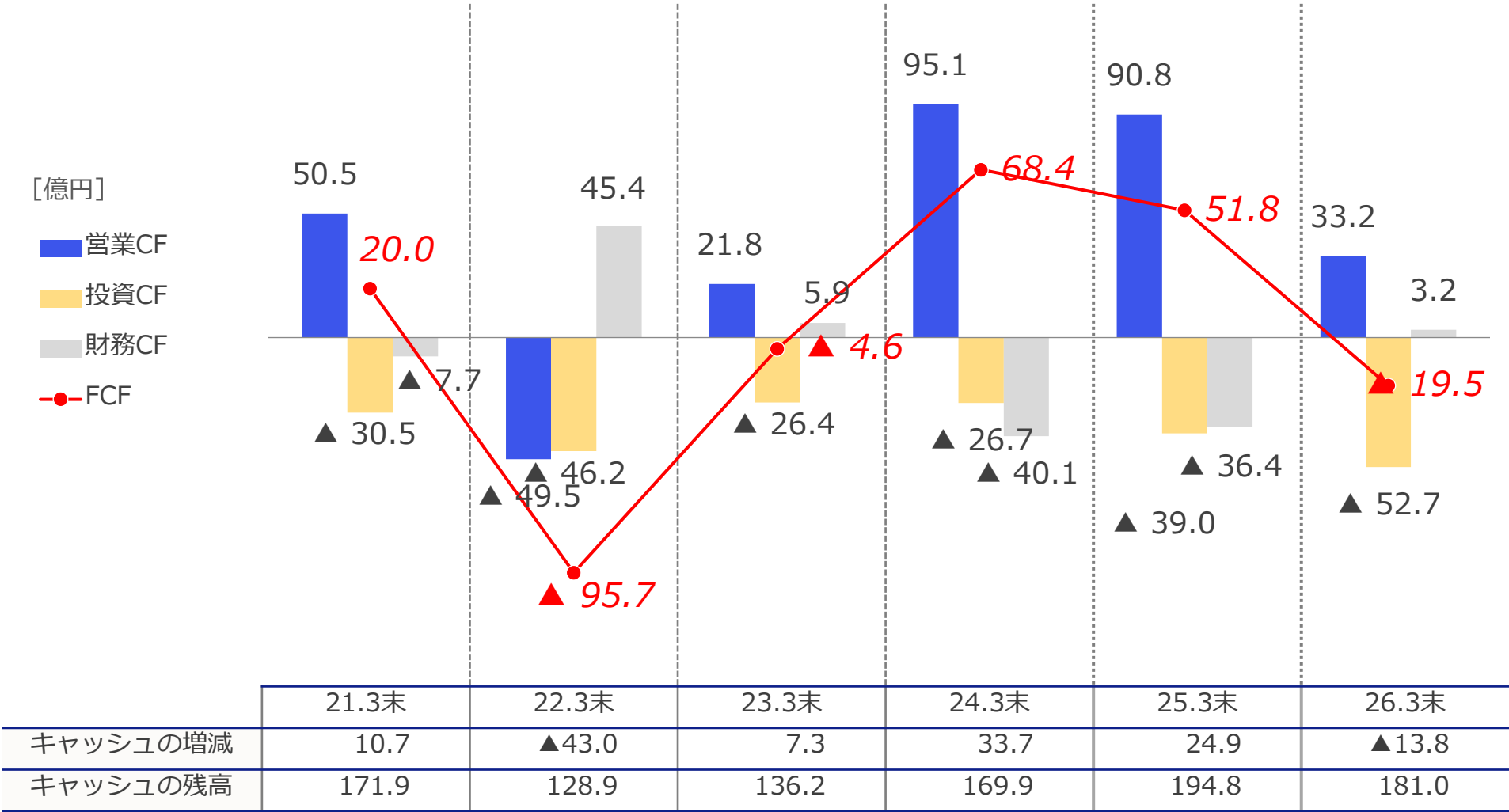
電子化学実装: 売上高・営業利益の推移



情報機器：売上高・営業利益の推移

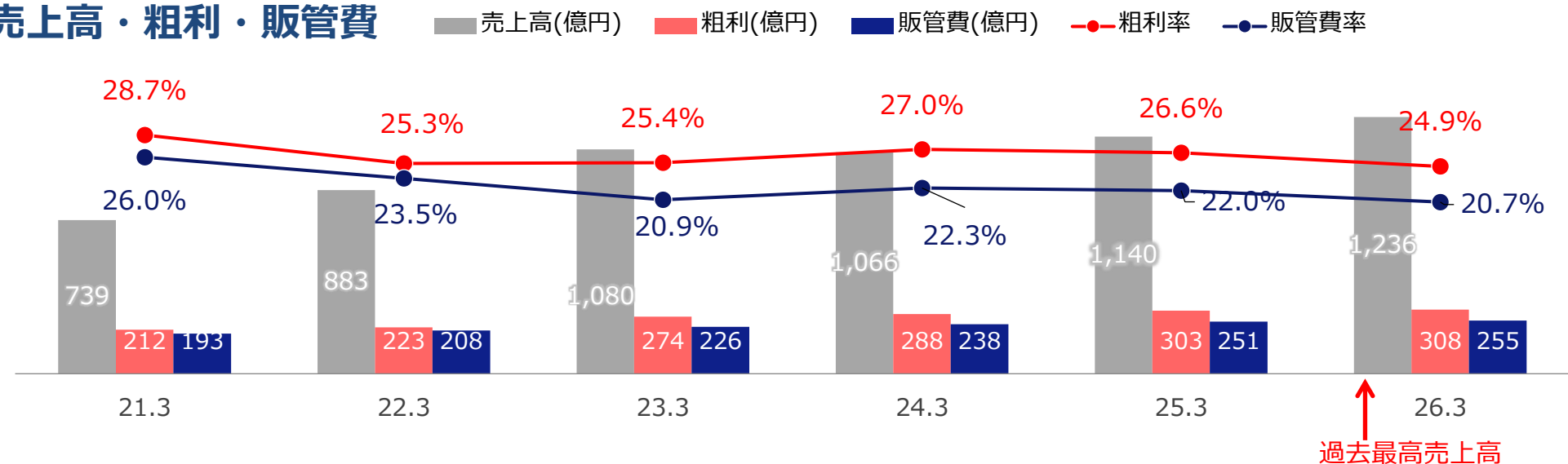


キャッシュ・フロー

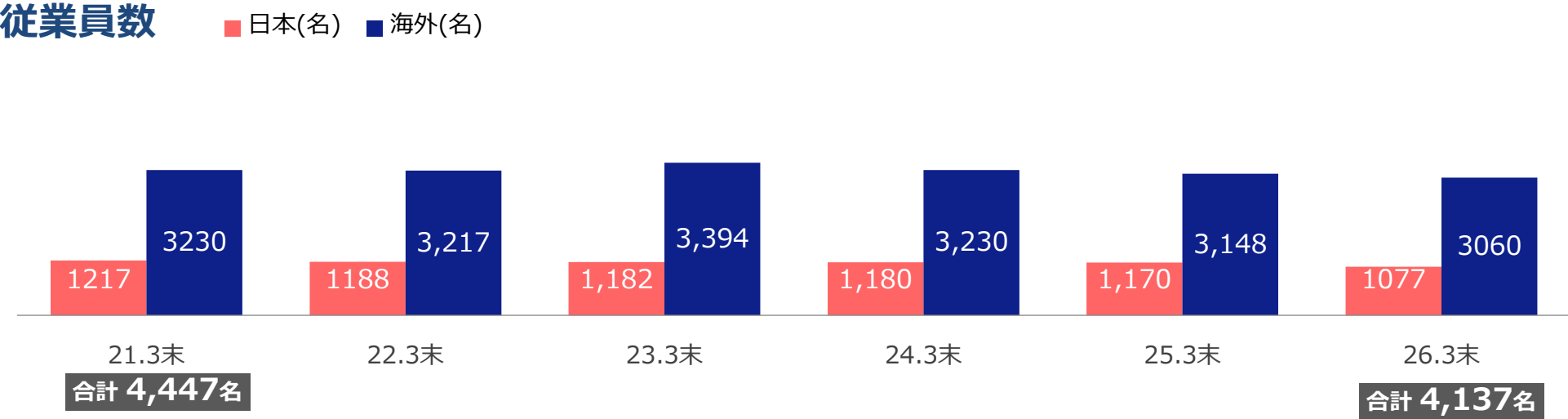


売上高・粗利・販管費・従業員数の推移

売上高・粗利・販管費



従業員数



タムラの歩み

タムラ製作所は1924年5月11日に創業、2024年に100周年を迎えました。

創業当時のラジオおよび電子部品の製作・販売から始まり、現在は「電子部品」「電子化学実装」「情報機器」の3つの事業分野で、様々な市場のニーズに応える製品・サービスを提供しています。

1924年創業 田村ラジオ商会



ラジオ、電気蓄音機の製作・販売
トランスの自作化

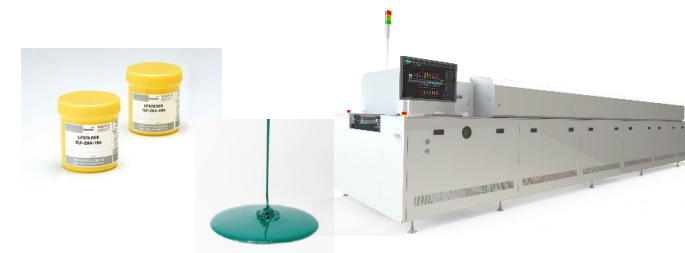
トランスの追求

電子部品



接合技術の追求

電子化学実装



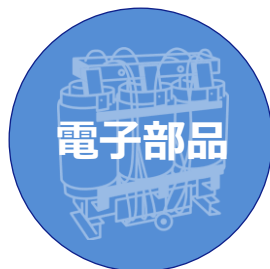
音声・通信技術の追求

情報機器



事業領域

事業別売上高



売上高 : 815億円
営業利益 : 33.0億円
営業利益率 : 4.1%

主要製品

トランス
リアクタ
コイル
大型トランス/リアクタ
バッテリーチャージャ
絶縁型DC-DCコンバータ
モジュール
ゲートドライバ
電流センサ など



トランス/コイル・リアクタ/大型リアクタ



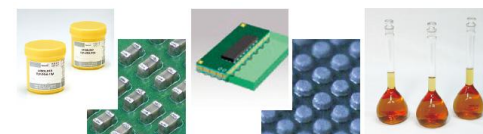
絶縁型DC-DCコンバータモジュール/電流センサ/ゲートドライバ



売上高 : 399億円
営業利益 : 33.3億円
営業利益率 : 8.4%

主要製品

溶剤ペースト
フラックス
溶剤レジスト
実装装置 など



溶剤ペースト/フラックス



溶剤レジスト



実装装置



売上高 : 21.4億円
営業利益 : ▲5.7億円
営業利益率 : ▲26.5%

主要製品

音声調整卓(ミキサー)
ワイヤレスインターカム
ワイヤレスマイクロホン など



放送用音声調整卓



ワイヤレス機器

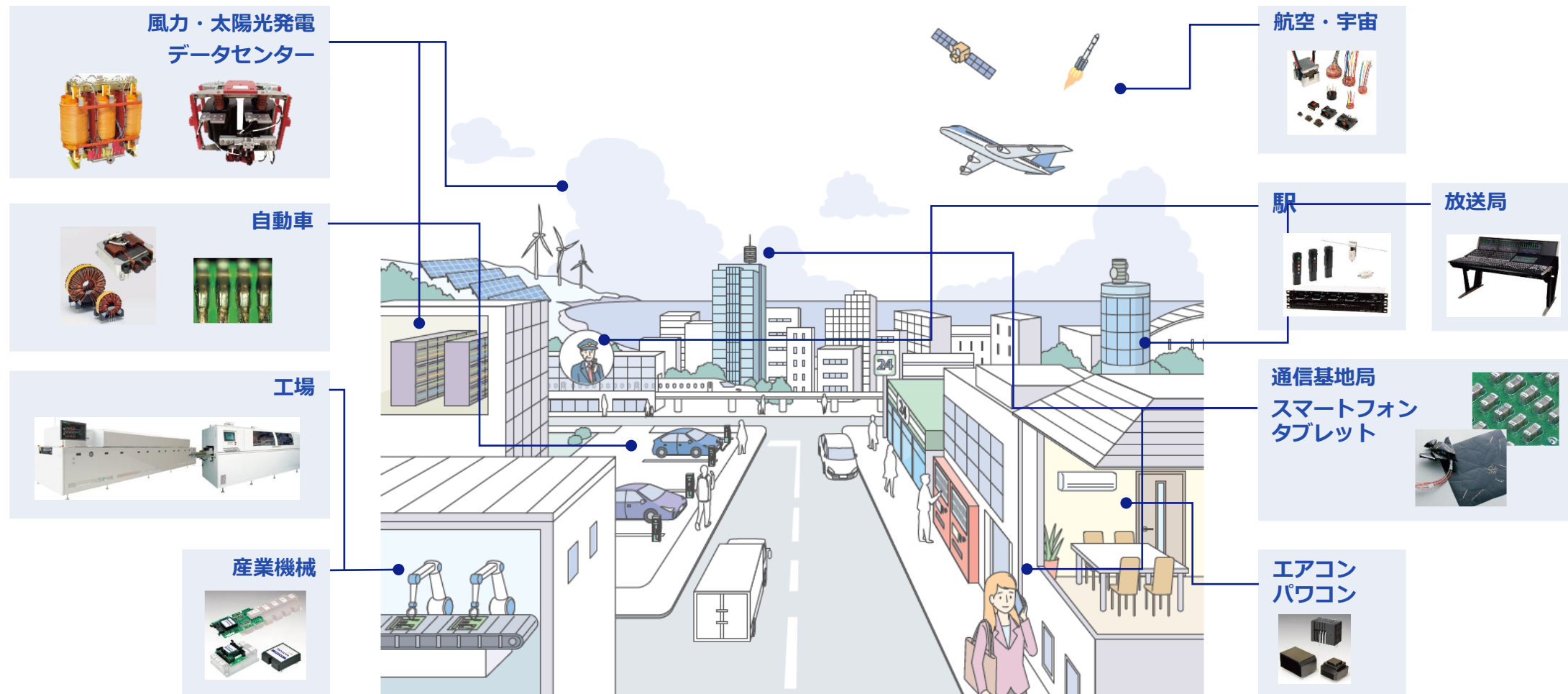
(2026年3月期)

社会・産業・暮らしを支える



社会・産業・暮らしを支えるタムラグループの製品

タムラの製品は「材料」「部品」「装置」として、自動車や電子機器など身近な製品から製造現場の装置や再生可能エネルギー分野、さらには宇宙まで、さまざまな産業や社会インフラを支えています。

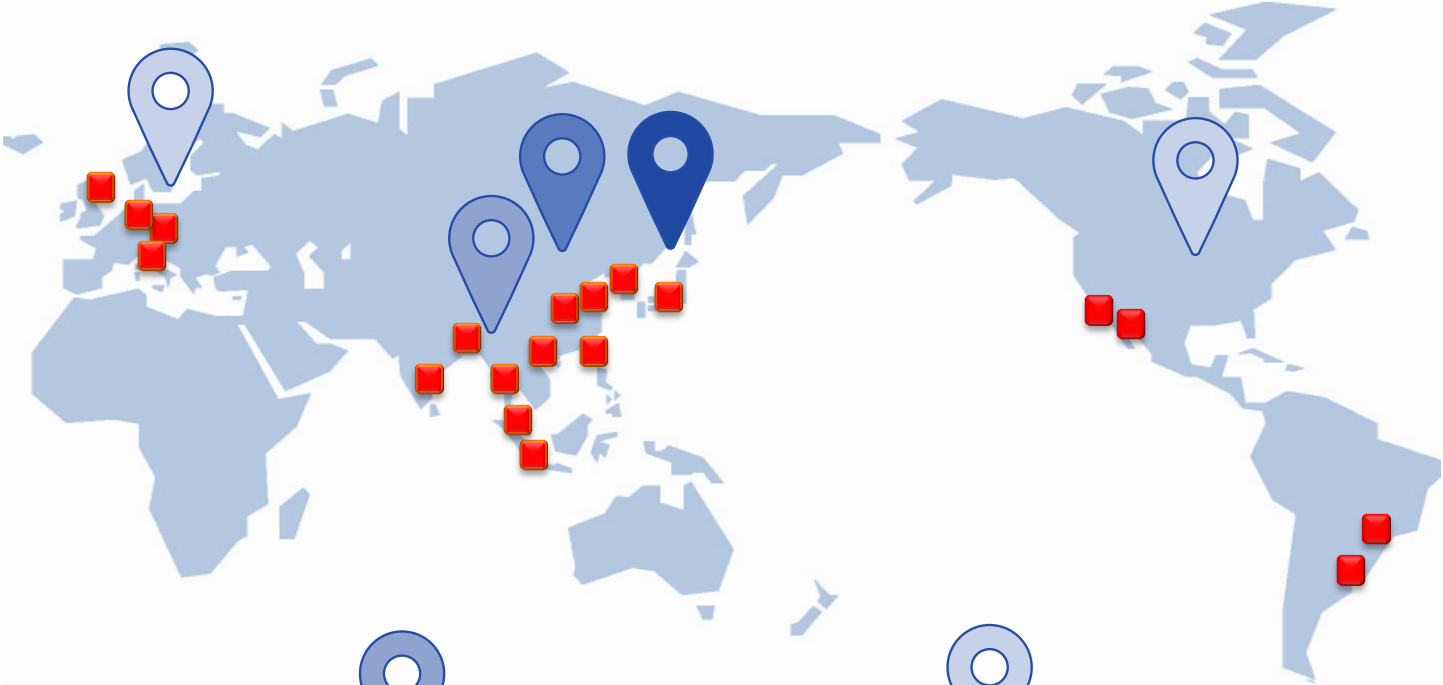


地域別概要

地域別売上高



地域別従業員数



日本

- ・売上高 : 342億円
- ・従業員数 : 1,077名
- ・製造拠点 : 5拠点

中国

- ・売上高 : 297億円
- ・従業員数 : 1,586名
- ・製造拠点 : 8拠点

その他アジア

- ・売上高 : 240億円
- ・従業員数 : 839名
- ・製造拠点 : 5拠点

欧米

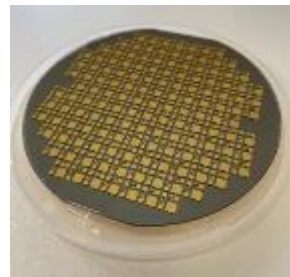
- ・売上高 : 357億円
- ・従業員数 : 635名
- ・製造拠点 : 3拠点

(2026年3月期および2026年3月31日現在)

カーボンニュートラルへの貢献 ～酸化ガリウムパワー半導体の研究開発

- ◆ タムラ製作所の研究開発部門が独立して設立された株式会社ノベルクリスタルテクノロジー（NCT）は、カーボンニュートラルへの貢献が期待される酸化ガリウムパワー半導体の研究開発を推進しています
- ◆ タムラは、NCTと接合材料や電源機器などの共同開発を進め、中長期的視点で共に成長を目指しています

酸化ガリウムパワー半導体 研究開発



- 酸化ガリウム：SiCやGaNを越える高性能とコスト競争力が期待されているパワー半導体
- 研究開発チーム：NCT、タムラ製作所、情報通信研究機構、東京農工大学を中心とするチームで世界をリード
- NCT：タムラ製作所の持分法非適用関連会社（出資比率は約40%）。外部資本を積極的に取り込み、独立した経営陣でスピーディーな開発と事業化推進を行うため2015年に設立

NCTのホームページはこちら <https://www.novelcrystal.co.jp/>

タムラとNCTの取り組み



- 特許技術供与
- 技術支援・販売支援
- 周辺製品・材料のコラボレーション

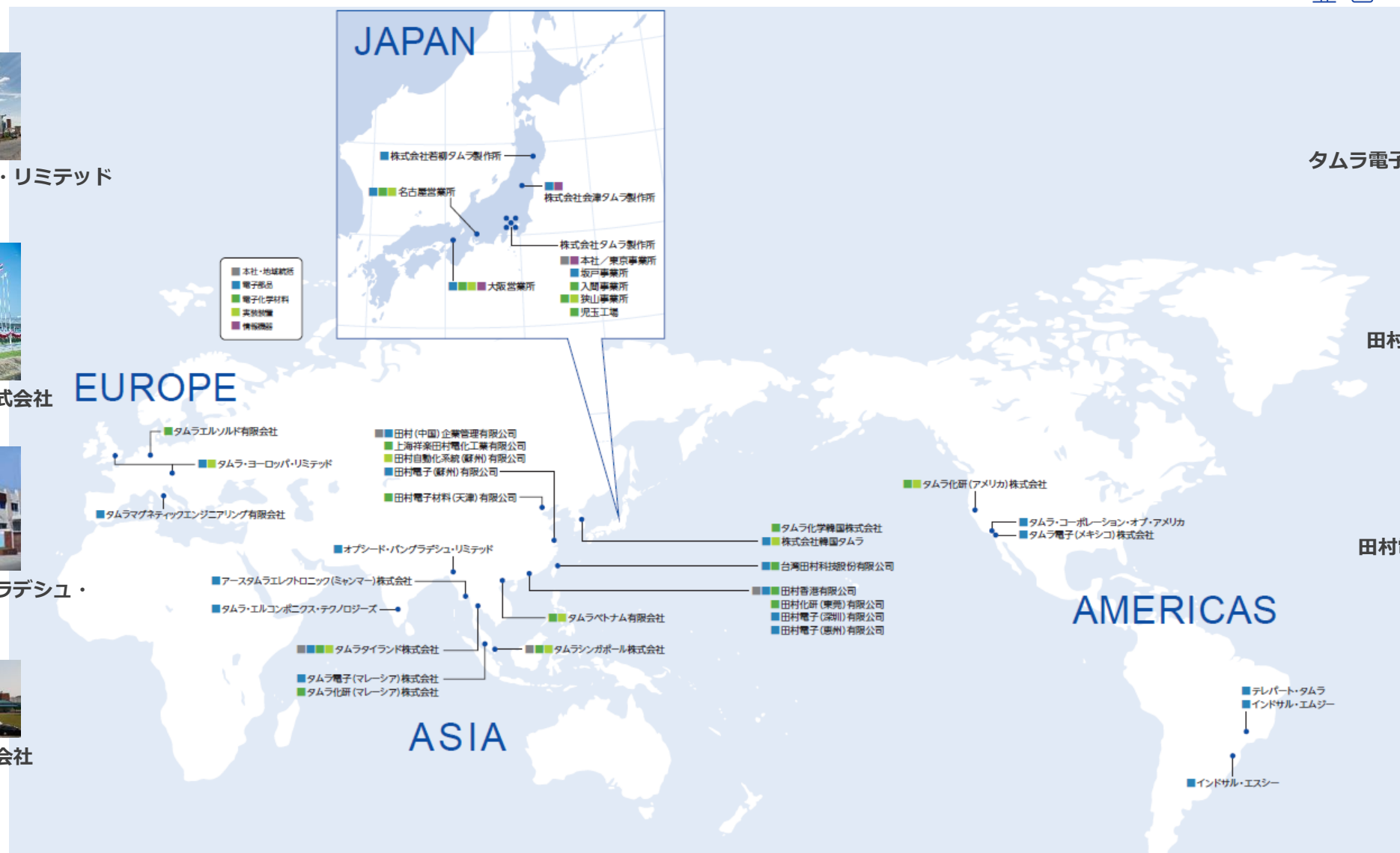


- 酸化ガリウム基板
およびパワーデバイスの
製品化・製造販売

[NCTからの発表（抜粋）]

- 2023年12月 世界初、垂直ブリッジマン法による6インチβ型酸化ガリウム単結晶の作製に成功
- 2025年3月 酸化ガリウムトランジスタの世界最高性能を更新
- 2025年9月 防衛装備庁「令和7年度安全保障技術研究推進制度」に採択
- 2025年12月 貴金属の使用量を大幅に削減した結晶育成法の開発に成功
- 2026年2月 第47回応用物理学会論文賞において応用物理学会解説論文賞を受賞
- 2026年2月 次世代パワー半導体向け150mm酸化ガリウム基板サンプル出荷開始

事業拠点



当社からのお願い

本資料の業績予想、見通し及び事業計画については、
現時点における将来環境予測等の仮定に基づいております。
本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

株式会社タムラ製作所
経営管理本部